

長兵衛と權八

前篇

帝キネ 時代映畫

原作者 勝本勝雄
 脚色者 英田尚悟
 監督者 深川ひさし
 撮影者 岡本静夫
 主演者 尾上紋十郎
 中村小福
 第三百三號

紹介 鈴ヶ森の長兵衛權八出會から始まつて、權八が白柄組の刺客に雇はれる邊に新解釋らしい今までの權八と違つた事件を扱つて居るが併し結局是迄の新らしい權八の活躍も決して從來の講談趣味から抜け切らない。小紫と權八とが廓での逢瀬も情味に乏しい。せめて「天保泥繪」の時位の味を持たせたら、最後の大亂闘にも大いに喝采があつたらうか、是では單に人を斬りたい權八、村正を持つてゐる權八で、それに配する長兵衛も甚だ存在價值が薄いと云ふものである。前篇だけで斷官は出來ないが、是れ位の「長兵衛と權八」は今更新らしく作らなくともいふと思ふ。歌舞伎風な演出者たちなのだからもつと忠實な長兵衛と權八を作つてほしかつた。別に新解釋などは氣分を毀す以外に何等の効果もないのだから。カメラは鈴ヶ森の所を除く外、よく×けてゐて氣持がいい。配役は適材、少々小紫が喰ひ足りぬらみがあつたのみ監督者は餘り賞むべき所がない。

(寫真版紹介) 水町 青 磁

興行價值 相當面白いものだ。地方館などでは大いに喜ばれるものだ。前後篇を同時に出した方が更に興味と喝采を得るに相違ない。

(七月十五日 大阪芦邊劇場、神戸相生座封切)